

Si-R180 V32.00 変更内容一覧

□機能追加・改善

No.	項目	内容
1	動的VPN機能の拡張	<ul style="list-style-type: none"> remote定義での動的VPN機能 remote定義での動的VPN機能を追加しました。これにより、動的VPNでのセンター×拠点の常時接続、QoS機能、static経路設定などが可能となります。 ルータ優先度設定(拠点ルータの冗長化) 動的VPNサーバ側で、冗長化された拠点のどちらのルータを使うかを優先度によって判断する機能(ルータ優先度設定)を追加しました。 動的VPN経路の優先度(distance)設定 動的VPNで作成する経路の優先度は1固定でしたが、優先度の設定が行えるようになりました。これにより動的VPN環境においても、バックアップ構成を構築することが容易になります。
2	IPsec機能の拡張	<ul style="list-style-type: none"> NATトラバース機能 NAT経由でのIPsecを可能とするためにNATトラバース機能を追加します。途中のNAT装置でIPsecをNAT変換する機能(静的NAT)が備わっていても、NATトラバース機能を使用することによりIPsecによる接続が可能となります。
3	ポリシールーティング機能の拡張	<ul style="list-style-type: none"> Ingressポリシールーティング 受信インタフェースにて、パケットパターン(ソースアドレス等)により出カインタフェースを振り分ける機能(Ingressポリシールーティング)を追加しました。
4	RADIUSサーバ機能拡張	SR-SシリーズのRADIUSサーバになれるように、認証機構として802.1xサーバ機能を追加しました。また、MAC認証やWEB認証機能に対応するため、VLAN IDの配布機能を追加しました。
5	ブリッジ機能拡張	Ethernetのコントロールフレームをブリッジにより転送する機能を追加しました。
6	DHCP機能拡張	DHCPサーバおよびDHCPリレーで設定済みのMACアドレスからの要求時のみアドレスを配布する機能を追加しました。
7	BGP機能拡張	TCP MD5 signature optionを追加しました。
8	static ARP機能	ARPエントリを固定で設定するためのstatic ARP機能を追加しました。
9	tailコマンド	syslogや統計情報等の終端付近を出力するためのtailコマンドを追加しました。
10	syslog保存機能	装置のリセット時に消去されていたsyslogを保存する機能を追加しました。
11	ブリッジフィルタのSNAP対応	ブリッジのフィルタで、SNAPフィールドに対応しました。
12	commit時エラー表示	commit時に出力している構成定義矛盾のsyslogを、commitコマンドを実行した端末にも出力するようにしました。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V31.01~V31.03	動的VPN接続において、INVITEのすれ違い時に、SIPセッションが不正に確立される場合がある。
2	V30.01~V31.03	IPv6アドレスのlocalnetを複数指定して動的VPN接続できない。
3	V31.00~V31.03	動的VPN接続において、接続先監視アドレスとlocalnetの先頭アドレスに異なるアドレスファミリー(af)、2定義目と同じafのアドレスを設定してcommitすると以下のメッセージを出力して定義反映エラーとなる。 protocol: template 0 is not available: lack or invalid configuration.
4	V31.00~V31.03	拡張IPsec対象範囲(extension-range)設定がある接続先情報を削除し動的定義変更を実施するとsysdownする場合がある。
5	V30.01~V31.03	動的VPNの送出インタフェースがPPPoE+NATを使用している場合にPPPoEが切断された後に送出されるIPsecトンネルアドレスが不正な値になる場合がある。
6	V30.01~V31.03	IPsecの回線閉塞でISAKMP SAが削除されず再接続できない場合がある。
7	V31.00~V31.03	IKE-SA/IPsec-SAの組み合わせによってはIPsec通信できない場合がある。
8	V30.01~V31.03	RA送信パラメタの内容と、Neighbor Discovery挙動およびHopLimitの値が連動しない。
9	V30.01~V31.03	UDPチェックサム0のパケットをNATの宛先変換でアドレスを変換すると、UDPチェックサムを不正な値に補正してしまい、到達したホストで不正なUDPパケットとして破壊されてしまう。
10	V30.01~V31.03	IPアドレスを範囲指定した静的NATを定義したとき、FTPによるデータ転送ができない。
11	V30.01~V31.03	グローバルポート番号に65535を含む範囲指定されたNATテーブルを解放すると、装置が無応答となる。
12	V30.01~V31.03	lenフィールドが0のBattle.netパケットをNAT処理すると、装置が無応答となる。
13	V31.00~V31.03	NAT機能が有効なLANの定義(lan X mdiなど)を変更して動的定義変更を行うと、NAT機能が無効になる場合がある。
14	V30.01~V31.03	RADIUS通信を行っている最中に動的定義反映でaaa radius service serverからoffといったRADIUSのソケットを閉じるような定義反映を行うと、メモリ破壊によるシステム異常が発生する場合がある。
15	V30.01~V31.03	sshログイン中に大量のssh接続要求があるとメモリ資源枯渇が発生してシステムダウンする可能性がある。
16	V30.01~V31.03	回線着信未サポート装置にて、vrrp action dialrejectが設定できてしまう。
17	V30.01~V31.03	VRRPのグループを動的に追加したとき、ルーティングができない。
18	V31.00~V31.03	WEB画面の操作メニューの「LAN閉塞/閉塞解除」において、LANインタフェース一覧で指定したインタフェースと異なるインタフェースが閉塞/閉塞解除される場合がある。
19	V30.01~V31.03	Web設定において、ACL情報の表示条件入力の表示個数欄の初期値が、全表示となる場合がある。
20	V31.03	Web設定のUPnP情報において、ポートマッピング有効期限として「無期限」を選択して設定しても、UPnP情報を再表示すると、ポートマッピング有効期限として「設定する」を選択してしまう。
21	V31.00~V31.03	UPnP情報のポートマッピング有効期限を設定した際に表示されるエラーメッセージに誤りがある。
22	V30.01~V31.03	無効なRouter Solicitationを受信した場合、RSを破棄せずRouter advertisementを返してしまう場合がある。
23	V30.01~V31.03	装置起動時に、構成定義矛盾のシスログを多数出力する場合、装置が起動中のままとする場合がある。
24	V30.01~V31.03	FTP接続後の回線断で、再接続できなくなる場合がある。
25	V30.01~V31.03	ftpによる接続の後、telnetで接続できなくなる場合がある。
26	V30.01~V31.03	動的定義変更によりブリッジの設定を行う場合、その手順によりブリッジが有効にならない場合がある。
27	V30.01~V31.03	大量の宛先への自発パケットが短時間に発生した場合に、資源枯渇によりシステムハングまたはシステムダウンが発生する場合がある。
28	V30.01~V31.03	IPv4パケット転送時に、IPヘッダチェックサム値が不正値(0xffff)になる場合がある。